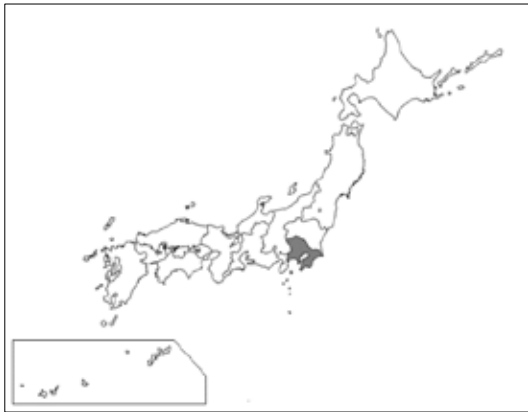


## (4) 南 関 東



南関東地域では、景気は一部に足踏みがみられるが、緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更 )

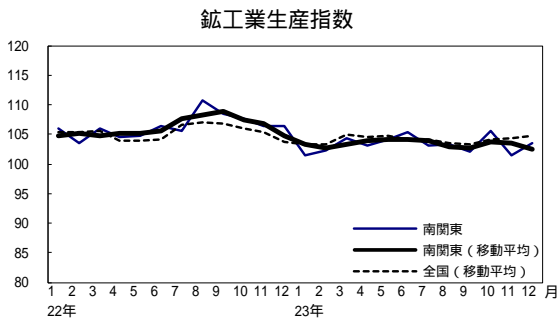
前回からの主要変更点

なし

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

10 - 12 月期の鉱工業生産は、前期比 0.7% 増となった。月別にみると、10 月は「輸送機械」が増加したこと等により前月比 3.5% 増、11 月は「輸送機械」が減少したこと等により同 3.9% 減、12 月は「汎・生産・業務用機械」が増加したこと等により同 2.1% 増となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
石油・石炭、化学、プラスチック	26.3	0.8	0.6	5.1	5.4	0.6
食品・たばこ	14.4	1.5		2.1	1.5	
輸送機械	12.9	1.8	8.0	10.0	9.4	4.5
電子デバイス、電気、情報通信	12.4	4.4	0.3	2.5	4.8	1.2
汎・生産・業務用機械	12.3	4.3	4.6	1.2	4.1	11.1
鉱工業	100.0	1.3	0.7	3.5	3.9	2.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10 - 12 月期、12 月は速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの、食品・たばこは公表されていない。

3. 業種は内閣府にて分類。

(備考) 1. 2020 年 = 100、季節調整値。

南関東の最新月は速報値。

2. 全国及び南関東の太線は中心 3 か月移動平均。  
直近月は 2 か月平均。

3. 南関東は内閣府にて算出。

## 2. 個人消費の動向

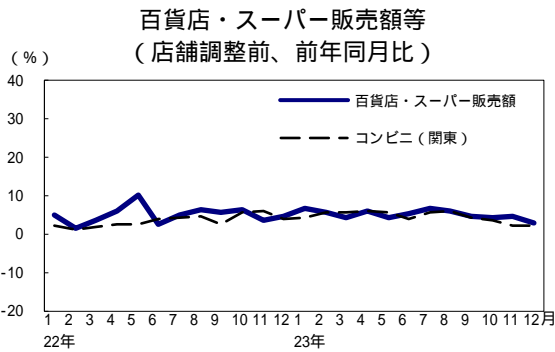
個人消費は持ち直している。

### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10 - 12 月期は前期比 0.4% 減となった。月別にみると、10 月は前月比 0.6% 減、11 月は同 0.2% 増、12 月は同 0.3% 増となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10 - 12 月期は前年同期比 3.8% 増となった。月別にみると、10 月は前年同月比 4.3% 増、11 月は同 4.7% 増、12 月は同 2.8% 増となった。



	2023年10-12月	2023年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.4	0.6	0.2	0.3
百貨店・スーパー(*2)	3.8	4.3	4.7	2.8
コンビニ(*3)	2.6	3.7	2.1	2.1
乗用車(*4)	13.0	14.3	13.8	10.9
(季節調整値)(*4)	3.2	11.8	5.3	1.1

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

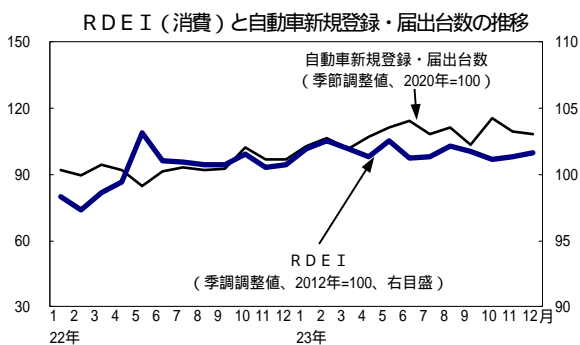
2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新島、山梨、長野、静岡)の値。

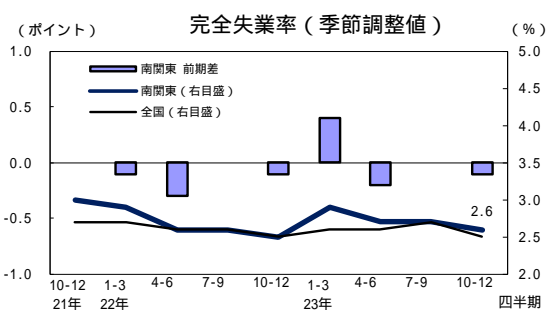
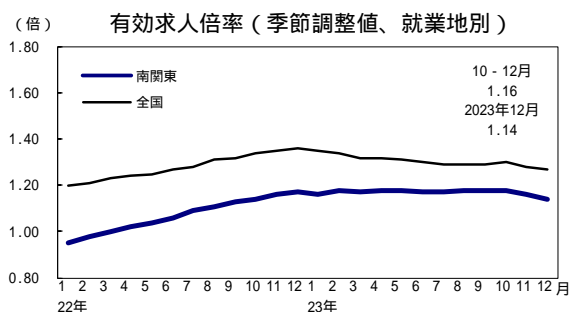
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率は低下しているものの、前回の景気循環の平均的な水準にある (P9 参照)。一般労働者の定期給与、パート労働者の時給は上昇している (P10 参照)。完全失業率は前期を下回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和6年1月調査）景気判断理由の概要

4. 南関東

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	□
○			・年末の繁忙期と比較すると売上は落ちるが、来客数はさほど落ちていない。また、今月は週末の来街者が非常に多く、週末だけみると当店への来客数は年末より増えている（一般小売店〔文房具〕）。
▲			・来客数は増えているものの、客単価が低く、節約志向が目に見えて分かる。ついで買いが減っている（衣料品専門店）。
企業 動向 関連		□	・前年同期は医療品容器にアフターコロナの特需があったが、今年は落ち着いてしまっており、売上が減少している（プラスチック製品製造業）。
		○	・年末年始は来客数が増え、3か月前よりますます活気が出てきている（食料品製造業）。
	▲	・過去10年間の売上の流れをみると、今月は前年に続き最悪の状況ではあるものの、前年比20%アップとなっている。新型コロナウイルス感染症の影響は収まってきたようである（電気機械器具製造業）。	
雇用 関連	□	・当社及び同業他社でも、中途、新卒共に採用人数を増やしているが、なかなかその採用人数の目標を達成できていないところが多いという話を聞いている（求人情報誌製作会社）。	
	○	・求人企業の幅が、メーカーだけでなく一般企業にまで広がっており、求職者の職種も広がっている（民間職業紹介機関）。	
その他の特徴 コメント			○：コロナ禍明け以降、まだ外食ニーズは高まり続けている。インバウンドも手伝い、値上げの影響もあるが売上は増加傾向で、1人当たりの客単価だけでなく、来客数も伸びている（一般レストラン）。 ▲：能登半島地震と航空機事故の影響で、キャンセルが増えている。通常と異なりキャンセル料も取れず、収益にならない（旅行代理店）。
先行き	家計 動向 関連	□	・来店客の増加傾向は継続しており、好調を維持する見込みである。一方で、客単価は値上げの影響が一巡して前年を割り込む傾向になってきたため、トータルで前年並みくらいで推移するのではないかと推測される（コンビニ）。
		▲	・物流の2024年問題などで更に値上がりが見込まれる。一時的な節約や買い控えなどの影響がある（スーパー）。
	企業 動向 関連	□	・原材料の価格高騰等の影響、景気の先行き不透明感が根強くあり、この先もしばらく変わらない（その他サービス業〔廃棄物処理〕）。
		○	・春に向けて繁忙期を迎える（その他製造業〔化粧品〕）。
	雇用 関連	□	・各メーカーでのエンジニア不足は落ち着きが見えず、今後も派遣ニーズは変わらず多いと見込まれる（人材派遣会社）。
その他の特徴 コメント			○：物価上昇による客の消費マインドの厳しさもあるが、春闘での賃上げが多くの業種で行われる見通しもあり、一進一退ではあるものの少しずつ良くなる（百貨店）。 ○：人が動く時期になり、歓送迎会の需要も見込める（その他飲食〔居酒屋〕）。

(D I) 現状・先行き判断D I（南関東）の推移（季節調整値）

